

ふくしまFMで、^{まつうらこうちょう}松浦校長が^{まな}学びを^よ呼びかけ (9/24)

北村茉倫アナウンサー) 「福空間(フクスペース)」、2時代のコーナーは「ふくしまSCOOP」です。今回は、本宮市にあります「自主夜間中学」の話題です。

加藤漢太アナウンサー) この「自主夜間中学」というものは、どういうものなんですか？

松浦正男校長) さまざまな事情から、義務教育をもう一回学び直したいという人たちや、あるいは日本語を学びたいという外国人が通う、夜間学校です。で、授業料は無料です。

以前は、戦後の混乱している時、なかなか学校に通えなかった人たちが中心に通っていたわけですが、そういう夜間の中学に。今では、中学校に行っていたんですけども、病気とか、あるいは体調不良で、不登校になって学ぶことが十分にできなかった、そういう人たちも、今新しく勉強してみたいなということで、勉強を始めたところなんです。外国のルーツの人など、多様な背景を持った人たちが学んでいるところです。

このうち、民間ボランティアなどが運営しているのが、「自主夜間中学」です。年齢、国籍などに関係なく、誰でも学ぶことができます。生徒が希望する科目を選ぶことができます。講師は、教員経験のある人、あるいは、なくてもそれなりの強い指導力のある方、などが務めます。「本宮自主夜間中学」は、今年の7月、本宮市内に開校しました。9月までは日曜日の午前中だけだったんですが、10月からは水曜日の授業も入ります。そして、夕方、夜間の授業も行います。

加藤アナ) 「本宮自主夜間中学」では、どういう方が学ばれているんですか？

松浦校長) 中学生が2人、大人が4人、学んでいます。中学生の2人は、病気やあるいは体調不良で、思うように学校に通えなかった方です。それを取り戻したいなあ、ということで、通学しているところなんですけれども。主に英語と数学の2時間の授業を、繰り返しながら学んでいます。大人はそして4人、大人の方は不得意な英語や、あるいは国語、または興味のある地理などを、学び直している途中です。

加藤アナ) 最後になりますが、リスナーの皆さんにメッセージをお願いしたいんですが。

松浦校長) 今年の夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。その時のキーワードは多様性です。人にはそれぞれ、さまざまな背景、さまざまな事情があります。学びたかったこと、あるいは学びたいと思う、そして学ぶことをあきらめないで、その「夜間中学」の扉をたたいてみてください。学ぶということはどういうことかなあ、という、「学ぶというのは、生きるための力を身につける場所」だ。学ぶ機会が充分でなかったり、あるいは年齢や国籍の理由で学び直したい、その学習の機会の場を、多くの人々に提供したいと思います。ぜひ、興味のある方、お待ちしております。大、歓迎です。

古賀徹アナウンサー) いや、でも、松浦校長先生のそういう情熱を、最後に力強くそういう場をつくり、というね、メッセージをなんか受け取ったような気がしますね。でも、こうやって場をつくってくれる、学習の場は重要だから、生きていくことだから、ということで、なんか力強かったです。

北村アナ) 本当ですよ。皆さんにも、まずは知ってほしいというところと。あとはね、実際に学んでみたいという方、やっぱり学びのペースも、学びたいこともそれぞれですので、やりたいという気持ちがあれば、門をたたいてみてほしいなあ、と思いますね。